



次で「予測と減速の重要性」について解説!

…今日も快晴!… トラックドライバー日記

「安全・安心」に欠かせない取り組みを、サンライズ運送に勤めるスタッフたちそれぞれのエピソードを通じて紹介。

第13話 「予測と減速」が 安全の鉄則

橋本 いずみ (32)

姉御肌のトラックドライバー。テキパキした働きぶりでお客さまからの信頼も厚い。仕事に子育てに、多忙な毎日を送っている。



「自転車も急に停まらない」、だから先に停まりましょう!

丁字路で左折合流する際、右側から来る車両にばかり気を取られると、左から来た自転車の発見が遅れる可能性あり!



万一事故が発生すれば「タイヤの数が多い方(トラック)の過失割合が高まる傾向です。」

高齢歩行者の特徴を知り安全行動を!

高齢者は、自分の基準で「渡って大丈夫」と判断すれば、ゆっくりと横断を開始します。ドライバーは、高齢者を確認したら停まり、通過するまで待ちましょう。



高柳 勝二 (たかやなぎ かつし)

株式会社 プロデューブ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデューブ設立。中小運送会社からの依頼が多い“提案型”研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい・眠くならない・分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度より国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。

自転車は運転免許証も車検も不要で、歩くよりも移動時間を短縮でき、かごに荷物を載せて労力を軽減できることから、便利な乗り物の代表格です。しかし「便利なものは危ないもの」ともいえます。トラックを運転している皆さまの中には、自転車に対するヒヤリハット体験をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。

「存じかもしませんが、事故パターンとしては、交差点左折時にトラック左側方の死角にいた自転車を巻き込むことが多い傾向です。また丁字路で左折して合流する時に、右側からの直進車両に気を取られて、左から猛スピードで直進してきた自転車と接触することもよくあります。」車は急に停まらないうえに「同じく」自転車も急に停まらないうえに「考えて」運転時には「先に停まる」や「ともかく停まる」を実践していきましょう。

自転車も急に停まらない



交差点付近では事故が多発! 「予測と減速」「停止と確認」を忘れずに!

交差点事故は、「相手の未確認」や「相手が想定外の動き」をした時に発生。相手の動きを予測するとともに、停止線の手前では「安全・完全」に停まりましょう!

マンガ制作: ad-manga.com

高齢歩行者が多い時間帯・場所・行動心理を想定

子どもに対して「登下校の時間帯や学校、公園付近」での飛び出しを想定することと同じく、高齢者が多く集まるような「時間帯や場所」も想定しておきましょう。例えば、午前中に病院の近くを通過する場合、バス停で降りた高齢者が道路の反対側にある病院へ向かう際、近くに歩道橋がなければ横断歩道のないところを渡るかもしれません。また横断歩道があっても、高齢者の歩行速度から歩行者用の信号が赤に変わっても渡り切れないかもしれません。

子どもと違って高齢者には曜日(平日と休日)や時期(夏休みなど)はあまり関係ありませんが、こうした方々への配慮はドライバーが毎日取り組むべき安全行動といえます。

新たな環境で生活が始まる人も多く、何かと心が浮かれてしまう春。陽気に誘われて散歩を楽しんだり、通勤手段を自転車に変えたりするなど、屋外で活動する人が多くなるのもこの季節です。そうなる歩道や横断歩道の通行量が増加し、人と接触する交通事故が危惧されます。特に多いのが「一般道路での「交差点事故」で、その防止には「予測と減速」、そして「停止と確認」の回数を増やすことが必要です。ちなみに「一般道路から話は少しズレますが、高速道路では脇見や居眠り運転による「追突事故」が多く、構内では「バック事故」が多発する傾向です。

話を戻しますが、自転車や歩行者との「出合い頭の事故」の発生確率を下げる観点からは、運行経路の選択時に「信号がない裏道」よりも、「信号がある幹線道路」を優先する方が良いでしょう。ポカポカ陽気になったら、「一層の「予測と減速」、「停止と確認」をお忘れなく。

人が増える春は交差点事故も増加?

事故の発生傾向を知り、想定外の事故を回避

歩行者、自転車、高齢者などの事故パターンを把握し、事前予測につなげよう!